

高齢者の思いに寄り添う

1 学習対象

小学校4年生～6年生

2 ねらい

高齢者がどのような思いで日常生活を送っているのか、その思いに触れることで高齢者理解の心を育む。また、高齢者がよりよい生活を送るために、自分にできることを考え、取り組んでいこうとする態度を養う。

3 準備するもの

- ワークシート
- 資料（紹介する高齢者/黒板掲示用）

4 解説

内閣府作成の2022年版高齢社会白書によると、65歳以上の人口は、3,621万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）は28.9%となり、今後2042年まで上昇していくと推計されています。

高齢者の人権を考える上では、まず、高齢者の思いを理解することが必要となります。児童には、認知症、体の不自由さ、病気や介護といった、加齢に伴って起こる心身の変化等を直接的に伝えるのではなく、シルバー川柳を読むことを通して気づかせていきます。どうしてこの川柳をつくったか、高齢者の思いはどのようなことなのかと考えることで、児童が高齢者の思いに寄り添っていくことができます。

さらに「高齢者」と一括りにするのではなく、一人ひとり違う思いや変化があると考え、高齢になっても活躍する方々を例に挙げ、人は年齢に関係なくよりよく生きていこうとしていることに気づかせます。そして、将来、自分たちも高齢者になることを視野に入れ、高齢者がよりよく生きていくために、今の自分にできることは何か考えさせていきます。

なお、この授業の後に、身近にいる高齢者の方を紹介し合ったり、自分ができることを具体的に考えて実際に取り組んでみたりできると、より高齢者への理解が深まっていくと考えられます。

5 進め方（展開例） 45分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 7分	◆学習の確認（2分） ・授業の流れや留意点の説明を聞く。 ◆アイスブレーキング（5分） 「高齢者って何歳から？」 ①自分の考える年齢とその理由について、ワークシートに書く。 ②書いた内容を、4人グループで発表し合う。 ③各グループで出た考えを発表し合い、全体共有する。	・授業の流れを簡単に説明する。 ・P4【学習の約束】を伝える。 ・ワークシートを配付する。 ・③の後、制度上の高齢者の定義（下記枠内参照）を伝える。 【世界保健機構・医療制度】 65歳以上を高齢者とする。 ※65～74歳…前期高齢者 ※75歳以上…後期高齢者 【雇用安定法】55歳以上…高年齢者 【自動車運転】70歳以上…高齢者	・ワークシート

展開 28分	◆アクティビティ（28分） アクティビティ1 「高齢者の思いを想像しよう」 ①（ ）に入る言葉を考えて書く。 ②資料「シルバー川柳」を読み、興味を持った川柳とその理由を書く。 ③川柳の作者を想像し、どのような思いで川柳を書いたか想像し、話合う。 アクティビティ2 「活躍する高齢者に学ぼう」 ④資料「活躍する高齢者」を読む。 ⑤それぞれの活躍についてどう感じたか記入し、話合う。 1 若宮正子さん（アプリ開発者） 2 日野原重明さん（医師） 3 大川繁子さん（保育士） 他 身近な高齢者	・作者は楽しんで川柳を作っていると おさえたとうえで、正解や語句の意味 について確認する。 A 朝体操 足がふらつき （ フラダンス ） B （ 目が覚める ） ことを信じて 早寝する ・資料を配付する。 ・想像したことについて、グルー プで話し合わせる。 ・心や体の変化等は、一人ひとり 違っていることをおさえる。 ・アクティビティ1を踏まえ、夢 をもち、目標に向かって生きる 高齢者について紹介する。 ・身近な高齢者の方についての紹 介もできるとよい。 ・時間によっては記入を省略して 話し合わせる。 ・高齢者が活躍するために必要な サポートにも注目させる。	・資料
まとめ 10分	◆まとめ（10分） 「自分にできることを考えよう」 ・高齢者がよりよい生活を送るた めに、自分にできることを考えてワ ークシートに書く。 ・まとめの話を聞く。	・身近な高齢者もイメージし、こ れからどのように接するか、感 想もふまえて考えさせる。 ・授業をとおして児童から出され た考えや記述をもとに、ねらい をおさえ、まとめる。	・高齢者に寄り添うためには、一人ひとりの思いを知ったうえで、その思いに寄り添った うえで何ができるかを考えることが大切である。 ・今後、自分にできることは何かを考えながら、身近な高齢者の方に接していく。

<参考資料など>

「笑いあり、しみじみあり シルバー川柳 宴たけなわ編」

みやぎシルバーネット、河出書房新社編集部編 河出書房新社（平成30年3月刊）

「笑いあり、しみじみあり シルバー川柳 百歳バンザイ編」

みやぎシルバーネット、河出書房新社編集部編 河出書房新社（平成30年9月刊）

公益財団法人長寿科学振興財団 ホームページ

高齢者の思いに寄り添う



() 年 () 組 () 番 名前 _____

(1) 「高齢者って何歳から？」

高齢者とは… _____ 歳以上の人。

そう考える理由は…

(2) 「高齢者の思いを想像しよう」

① A・Bの () に入る言葉をそれぞれ考えて、記入しましょう。

A あさたいそう 朝体操 足がふらつき () (72歳)

B () ことを信じて はやね 早寝する (74歳)

② 「シルバー川柳」の中から、興味を持った川柳を一つ選び選んだ理由も記入しましょう。

私が選ぶのは… _____ です。

選んだ理由は…



③ 「活躍する高齢者」を読んで、それぞれの生き方についてどう感じましたか。

(3) 将来、自分や親しい人も高齢者になります。高齢者がよりよい生活を送るためには、どのようなことができますか？自分にできることを考えて記入しましょう。

① ポケたふり	いつの間にやら	本物に	(73歳)
② 欲しいのは	介護じゃないよ	元気だよ	(84歳)
③ 老いてなお	家に居ても	おしゃれする	(91歳)
④ 声変わり	可愛い孫が	遠ざかる	(80歳)
⑤ 90年	続けた趣味で	生きている	(98歳)
⑥ 満点と	百歳目指す	孫と祖母	(66歳)
⑦ 縁側で	子猫に聞かす	ハーモニカ	(76歳)
⑧ 孫の手を	つなぐといのち	惜しくなる	(84歳)
⑨ 先のない	人生なのに	楽しすぎ	(74歳)

活躍する高齢者

【新しいことに挑戦する】

① 若宮正子さん（アプリ開発者）



1935（昭和10）年、東京生まれ。高等学校卒業後、三菱銀行（現・三菱UFJ銀行）に就職。1989年、男女雇用機会均等法の施行後、管理職に就いた。定年退職後、母親の介護を機にパソコン通信を始める。81歳の2017年に雛人形を正しく配置するiPhone用ゲームアプリ「hinadan」を開発・配信。この実績から Worldwide Developers Conference2017に招待されて Apple CEO のティム・クックから「世界最高齢のアプリ開発者」と紹介された。

2018年には国連総会で「高齢社会とデジタル技術の活用」をテーマに基調講演。政府の「人生100年時代構想会議」や「デジタル社会構想会議」などに委員として参加。「公益財団法人長寿科学振興財団 Aging&Health 第31巻第1号

いつも元気、いまま現役（IT エヴァンジェリスト 若宮正子さん）」（撮影：丹羽諭）

【一つのことを継続する（生涯現役）】

② 日野原重明さん 聖路加国際病院名誉院長（医師） 105歳（2017年没）



「生活習慣病」という言葉をつくり、予防医療や終末期医療の普及につくした。民間としては初めて人間ドックを開設。国内初の独立型ホスピスを設立。「新老人の会」を発足。（現在、神奈川県では「日野原重明記念かながわの会」として、日野原さんの理念を引継ぎ活動をしている。）小中学生に命の授業を行うなど、命の大切さや平和の尊さを伝える活動に積極的に取り組んだ。「ベストセラー絵本「葉っぱのフレディ」のミュージカル脚本を執筆。「生きかた上手」他、多数の著書がある。2005年文化勲章を受章。亡くなる数か月前まで患者を診続けた。

（写真：2012年（当時100歳）神奈川県ホームページから）

③ 大川繁子さん（保育士）



1927（昭和2）年、東京生まれ。1945年、東京女子大学数学科入学、46年結婚のため中退。62年、小俣幼児生活団に就職、72年に主任保育士となり、現在に至る。

女性で初めて足利市教育委員、宇都宮裁判所家事調停委員となり、足利市女性問題懇話会座長などを歴任。モンテッソーリ教育やアドラー心理学を取り入れた今年創立71年の同園で、60年以上にわたり子どもの保育に携わっている。初めての著書『92歳の現役保育士が伝えたい親子で幸せになる子育て』（実務教育出版）は2019年9月に出版され、たちまち5刷となった。テレビでも紹介されるなど話題の人となった。

「公益財団法人長寿科学振興財団 Aging&Health 第29巻第1号

いつも元気、いまま現役（現役保育士 大川繁子さん）」（撮影：丹羽諭）